



校長

曾根 忠明

「サッカー部を作ろうと思うが、応援してくれるか」。多分、小椋君からだったと思うが、当時山岳部の部長をしていた私のところに相談があった。戦後まもなくの六甲は、クラブの数が少なく、山岳部でも、多いときには40人位の新入部員を迎えて、練習もままならぬ状態であったから、新しい部が出来るのに依存はなかった。「いいよ、手伝うよ」と答えたのが、私とサッカー部とのかかわりの始まりである。

我々7期生というのは、入学の時こそ150人であったが、戦争の影響や、学制改革の影響で人数が減り、さらに、中学4年、中学5年、高校3年と3回卒業の機会が与えられたので、高校3年のクラスは30人ぐらいであったから、何をしてもみんな一緒というところがあり、数人が、サッカー部を作ろうと言い出したら、皆で「やろう、やろう」というような家族的なところがあった。

そのようなわけで、私も、サッカー

部の諸君とは、同じ部の部員のようなつきあいをさせてもらった。

創立当初のサッカー部はまさに零からの出発と言える。

まずグラウンドは、今の第2グラウンドより狭く、しかも西側のゴールの後ろには旧校舎があったのでガラスを割らずに練習するのは至難の技であった。ボールもなし、グラウンドもなし、あるのは部員のやる気だけというような状態でスタートした創立当初のサッカー部にとって、今日のような部の姿は、夢のまた夢であった。

そのサッカー部が創立50周年を迎えると聞いて、創立に奔走した諸兄のご苦勞を改めて思い起こすとともに、ここまで育てて来た諸君の努力に敬意を表したい。

時あたかも、Jリーグの誕生で、サッカー熱が野球熱をうわまわる勢いである。六甲のサッカー部もこれに負けず、ますます盛んになることを祈念してお祝いのことばとしたい。